

小野谷機工のロードサービスクー

「Type-1N」に新型デビュー

小野谷機工は「このほど、新型ロードサービスクー「Type-1N」をさらに改良したニューモデルを発売開始した。これまでケージに後付けしていたエア充填機「ACE-β01r」をケージと一体化し、軽労化と安全性をさらに向上させた。同社商品開発グループの中村大樹主任にお話を聞いた。

(木本)

「Type-1N」は、7月に発売されたばかりのニューモデルで、本紙2318号でも特集した通り充実した機能が満載のロードサービスクー。

発電機とコンプレッサーの配置を90度変えることによりメンテナンス性を向上させ、コントロールパネルは一括集中式にした。コンプレッサーの出力も10馬力に向上、折り畳み式のセーフティーケージ「RSC-01M」を組み合わせ、軽労化とともに快適な作業環境を提供している。

しかし、小野谷機工の商品開発は、日々休むことなく進められている。お客様の意見を聞き、より使い勝手のいい商品を提供する。今回、改良ロードサービスクーが生まれたのも、そんなお客様の声

が契機だった。新型機の開発者である中村大樹主任は「お客様から頂いた意見の中に、エア充填機「ACE-β01」を持ち

運ぶのが面倒だという意見がありました。充填機はもとも鉄製だったのをアルミ製にすることにより5



夜でも明るい作業環境を提供



充填機とケージを一体化

込む形に改良することにした」と語る。充填機とケージの一体化では、充填機の厚さをいかに薄くするか

にこだわった。「開発で大変だったが、折り返み式ケージの間口の広さは以前

どれだけ狭く抑えられるか、電気部品の配置関係には苦心しました」と中村主任は語

る。現物を見せてもらったが、折り返み式ケージの間口の広さは以前

ケージ、充填機を一体に 作業性、安全性さらに向上

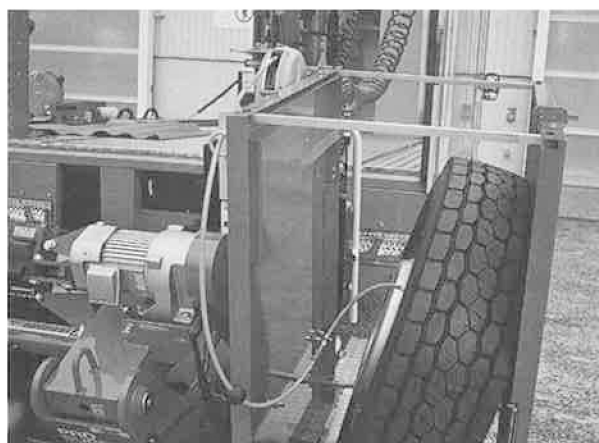
シの間口の広さを生かすだけ、パネルと基盤だけを埋め込むことで、そのための収納を

と同じまま。いかに薄く抑えられたかがよくわかる造りになっている。

もちろん、折り畳み式ケージのため組み立て、セッティングも実に簡単、作業者にとっては実に助かる。

電気部品の電源はTBチェンジャーの電源ボックスの後方から取

つており、必要はない。配線同士が絡まることもないし、省スペースでボックスを設置している。一体化させたこと



コードリール式で充填もラクラク

にどって使い勝手の良い仕上がりになっている。

消されるとみられる。軽労化と安全性をさらに高め、グレードアップした「Type-1N」。ロードサービ

り、指定空気圧までチャックした状態でエアを入れるだけ。作業者

今後同社ではこの改良型のロードサービスクーをメインモデルとして訴求していく方針で、すでにモニターのお客様からも好評を得ており、受注に際していく計画だ。

半導体不足による自動車減産の影響を受けて、シャシーの供給が滞っており、現在3ヵ月待ちの状況と

とだが、自動車業界も状況が好転してきており供給不足もやがて解消される



「Type-1N」と開発者の中村大樹さん

めるかを考えた結果、ケージに充填機を埋め



ケージの組み立ても実に簡単

で、軽労化も実現。確かに作業者にとって、いちいち充填機を持ち運びするのは体力の消耗につながる。これが無くなったのは大きなアドバンテージであるといえる。開発までにかかった時間はわずか2ヵ月で、このあたりも同社の開発力の強さを物語っている。

ホースリールも手元でチャックすることができるようになってお

営業所まで。